

平成 25 年度 事務事業マネジメントシート [事後評価]

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	10	01	03	0410	復興教育学校支援事業

事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度繰返	<input type="checkbox"/> 期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	--------------------------------	-------------------------------	-----------------

《事業目的》

郷土を愛しその復興・発展を支える児童生徒を育成するため

《事業開始の背景》

東日本大震災を踏まえ、安全で安心な社会づくりに貢献する意識を高め、「郷土を愛しその復興・発展を支える人材の育成」を進める復興教育が必要とされている。

《事業概要》

○復興教育に対する支援
 推進校・実施校による被災地支援ボランティア活動の実施
 心のサポート授業の実施
 市内で働く方々によるキャリア教育の実施
 地域連携による防災対策会議の開催

市民参画の有無 [対象外]

《事業展開の留意事項》

《成果指標》

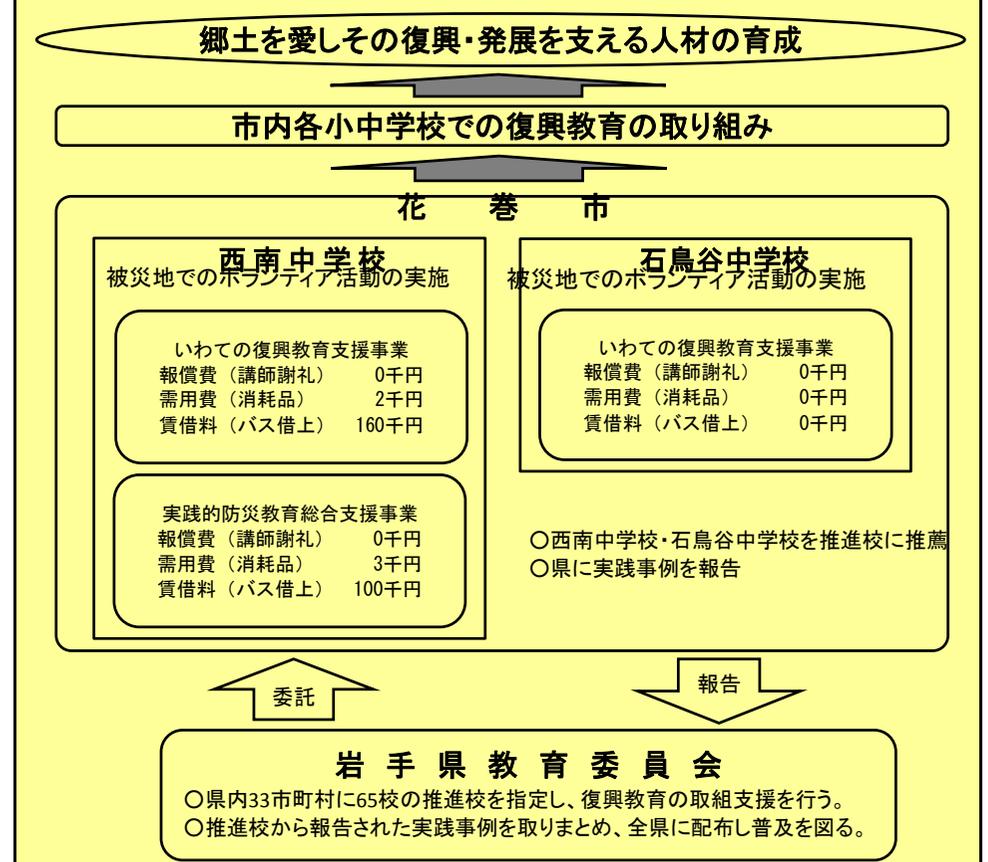
項目	単位	区分	24 年度(実績)	25 年度(実績)	26 年度(計画)
① 友達にやさしくしていると答えた児童の割合	%	目標	96.0	96	96
		実績	96.8	97	
② 友達に対して思いやりのある言動をしていると答えた児童の割合	%	目標		93	93
		実績	92	93	
③		目標			
		実績			

分野	担当部(機関)	担当課(機関)	担当係長	(内線)
人づくり	教育部	小中学校課	横手 勝美	9-30-338

	25 年度	当初(現計)	補正	25 年度	年度
事業費	265				
財源内訳	国県支出金	265			
	地方債				
	その他				
	一般財源				

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること

【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】



復興教育学校支援事業 (総括表)

平成 25 年度 事務事業マネジメントシート [事後評価]

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	10	01	03	0410	復興教育学校支援事業

総合計画	政策	地域で支える子育てと教育のまちづくり	施策	4-2	活力と特色ある学校教育の充実
目的	郷土を愛しその復興・発展を支える児童生徒を育成するため				
対象	児童生徒				
意図	希望と勇気を持って前に進む「生きる力」を育む				

《事業概要》…上記目的を実現するための事業手法を記載すること

○復興教育に対する支援
 推進校・実施校による被災地支援ボランティア活動の実施
 心のサポート授業の実施
 市内で働く方々によるキャリア教育の実施
 地域連携による防災対策会議の開催

市民参画の有無 [対象外]

市民協働の形態 共催 実行委員会・協議会 事業協力・協定
 後援・協賛 補助・助成 委託

活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位	区分	24年度(実績)	25年度(実績)	25年度(計画)
①	1校当たりの心のサポート授業の実施回数	回	計画	3	3	3
			実績	1	1	
②	1校当たりキャリア教育授業の実施回数	回	計画	3	3	3
			実績	18	12	
③			計画			
			実績			
成果指標（上記「意図」に対応）		単位	区分	24年度(実績)	25年度(実績)	25年度(計画)
①	友達にやさしくしていると答えた児童の割合	%	目標	96.0	96	96
			実績	96.8	97	
②	友達に対して思いやりのある言動をしていると答えた児童の割合	%	目標		93	93
			実績	92	93.0	
③			目標			
			実績			

要因分析

達成度 目標値より高い 概ね目標値どおり 目標値より低い

推進校・実施校において実施目的を十分に理解し効果的な指導を実施できたことが、目標の達成につながった。

《環境変化、意見・要望》…環境変化はないか？ 意見や要望が寄せられていないか？

復興教育の重要性が高まり、今後においても継続して取り組むことが求められており、学校も継続を希望している。

目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 公共関与の妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 妥当でない	花巻市の将来を支える「人づくり」を支援していくことは妥当。
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 成果の向上余地 <input type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 向上余地がない	取組成果を蓄積し共有することにより、更なる相乗効果が期待できる。
効率性	<input type="checkbox"/> 事業費・人件費の削減余地 <input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある <input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> どちらも削減余地がない	今まで経験したことがない大震災に係る教育であることから、専門家の招聘は現時点で欠かせない。
公平性	<input type="checkbox"/> 受益と負担の適正化余地 <input type="checkbox"/> 受益機会の見直し余地がある <input type="checkbox"/> 費用負担の見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適正である	推進校の取組成果が他校に普及することから、受益機会は均等。

《総合評価》…上記評価結果の総括

震災と向き合うことで、児童生徒一人一人が自分を見つめ直し、命の大切さを実感することができた。また、自分も地域や社会との関わりの中で生きていることを学ぶことができた。